

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援つぼみ			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		～	2024年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日		～	2024年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が活動に関心を持てるよう、スタッフが粘り強くプログラム内容に試行錯誤を重ねていること。	・関心や興味の範囲が少ない児童にも、少しでも関心を持ってもらえるような題材を提供している。 ・スタッフがで療育教材を手作りしたり、プログラムで視覚支援を取り入れたり、自由遊びで様々なやりとり遊びを提供したりして、児童が楽しみながら参加できるよう心がけている。	・クッキングや買い物実習等、コロナ蔓延時期に縮小していた活動を再開させるなどして、さらにプログラムの種類を増やしていく。
2	常勤スタッフが多く、配置人数が児童1～2人につき1人、クラスによっては1人の児童に複数のスタッフが支援にあたる手厚さがあること。	・支援会議のみならず、日々の振り返りや業務改善についての話し合い、支援の合間にふと発生する意見交換も、常にほとんどのスタッフが参加できるので、リアルタイムで児童の目標や課題を共有し、改善しやすくしている。	スタッフ同士の関係が大変良好なうえ、令和6年8月から採用のスタッフがほとんどを占めているので、今後もさらに活発な意見交換やチームワークの向上が見込まれる。
3	降所時などに施設内での児童の様子をスタッフがこまめに伝えるようにしていること。	・お子様の日々の様子を共有するだけでなく、保護者様にも施設が安心な場と思って頂けるよう、こまめに声掛けを行い、日頃の育児の相談もしやすい雰囲気づくりに努めている。	連絡帳の活用方法の周知を徹底し、保護者様が家庭での様子をより気軽に伝えやすくするような工夫をしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会・ペアレントトレーニング、保護者向けの研修の機会がない。	・土日祝日が休所日であり、イベント等の需要がある夜間や休日に動けるスタッフの確保が難しい状況である。 ・施設内では支援室以外のスペースが少なく、場所の確保についても課題がある。	・研修会などの全体的なイベントを行えないぶん、個別的に密な対応をに努めている（送迎時のお声がけやLINEの周知、連絡帳の活用など）。 ・現在は、外部研修のチラシを玄関スペースに設置して情報提供を行っている。 ・今後、定期的なお便りなどでの情報提供を検討する。
2	地域の園との交流の機会がないこと。	・地域の園との交流については、施設内で話し合いを重ねているが、保護者様からの要望が少なく、個人情報保護の観点からも、事業所としては現在のところ実施の見通しが立っていない。	・児童がイレギュラーな行事に無理なく対応できるかという点や、その年度によっての保護者様からのご希望の度合いなど、精査が必要である。
3	ホームページの未整備箇所が目立つこと。	・職員にホームページ整備の知識が乏しく、学びながら対応している。	・ホームページの代わりにInstagramを運用し、月のプログラムや活動の様子を周知する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援つぼみ

公表日 2025年 2月 25日

利用児童数 27

回収数 24

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	92%	4%		4%	・施設内を拝見し、適切な対応をしてくださっていると思った。 ・十分な数の職員さんが対応してくださっていると思った。 ・部屋だけでなく、外遊びを取り入れてスペースを広げる工夫がある。	・ご回答ありがとうございます。当施設は、平均的な事業所のスペースの平均よりは狭めかと思います。ご回答頂いたように、外遊びを取り入れたり、室内遊具を取り入れて体を使って活動できるよう工夫をしております。 ・限られたスペースだからこそ、お子様の年齢によって室内で安全に遊ぶため周りに気を配る練習や、声のボリュームに意識を向ける声掛けも行い、ご家庭や社会で、安全で快適に過ごす力にもつなげていきたいと考えております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					

環境・体制整備	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	75%	8%	4%	13%	・玄関と階段のスペースが狭いので、他の人とぶつからないよう注意が必要。 ・教室内は、見学の時にしか見ていないのでわからない。 ・活動の詳細まではわかりかねたので「わからない」と回答した。 ・バリアフリーについては、2階にあって階段を登る必要があるので、段差が難しい人にとっては厳しいかと思う。 ・階段が急なので少し危険を感じる。	・2階にある関係で、保護者様にはお子様の様子にお気遣いをさせてしております。いつも格別なご協力ありがとうございます。職員も、特にお迎えの人数が重なる降所時など、安全が確保できるようお子様の誘導に努めていく所存です。 ・支援室の様子は、見学時にはご覧頂けますが、お子様の集中や父母子分離ができにくくなる懸念があり、保護者様に活動を見て頂く機会が少ないのは日々課題に感じております。時間によってはパーティションの陰から短時間でご覧いただく対応も検討しておりますので、お声がけいただければと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%				・適切な対応をしてくださっていると思った。	・ご家庭から離れて初めてお預かりとなる午前クラスのお子様、園でがんばってから来所される午後クラスのお子様、それぞれのお子様にとってリラックスできる空間を心がけております。 ・1日2回のおもちゃの消毒を行い、感染症対策にも努めております。
	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%				・日々の活動記録を拝見し、適切にご対応頂いていることを確認している。 ・非常に親身に会話して頂いている。	・保護者様が話しやすいよう、スタッフから積極的にその日のお子様の様子をお知らせしております。引き続き、ご相談事がありましたらお気軽にスタッフにお声がけください。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%				・日々の活動記録を拝見し、適切にご対応頂いていることを確認している。	・当施設の方針や支援プログラムを、2月中に施設内に掲示し、年度内にホームページに掲載する予定です。ぜひご覧いただければと思います。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%				・とても個別性に合わせて頂いていると思う。	・具体的で、保護者様にわかりやすい支援計画を心がけております。ご質問等がございましたら、お気軽にお申し出ください。

適切な支援の提供	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%				・支援計画書を拝見し、具体的に設定されていると思っている。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%				・日々の活動記録を拝見し、適切にご対応頂いていることを確認している。	・職員が支援計画を常に意識できるよう、個別支援計画を閲覧しやすい場所に配置しています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	96%			4%	・毎回色々工夫して頂いていると思う。 ・日々の活動記録を拝見し、適切にご対応頂いていることを確認している。 ・月の中で何を行うか、はっきりしている。	・その月のプログラムは、前月に職員全員が参加してプログラムを日替わりで決めております。その時のお子様の成長具合や、クラスの集中の度合い、園行事が多めの時期は慣れ親しんだ活動を行うなど、その時期・その日にあったプログラムを設定するように尽力しております。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	34%	8%	29%	29%	・現時点ではないように思う。 ・保育園の先生が見学を行い、情報共有がされた。	・お子様が他の園と交流する活動は、行われていないのが現状でございます。ご回答頂いたように、園の先生と密に連絡をとりながら、お子様が快適に在籍の園で過ごせるよう努めております。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	96%			4%	・とてもわかりやすかった。 ・契約時に丁寧に説明を頂いた。	・引き続き、ご契約時にしっかり説明をさせていただきます。ご利用途中でも疑問に思われる点がございましたら、お気軽にお声がけください。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%				・契約時に丁寧に説明を頂いた。	・支援計画はご面談でお聞きしたご家庭のニーズを踏まえて全職員の観察結果をもとに作成し、責任者が説明を行っています。支援期間の途中でも、お気付きなことがありましたらぜひお声がけください。

保 護 者 へ の 説 明 等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	38%	12%	29%	20%		・時間等の調整が難しい関係で、ご家族向けの研修会等は現在のところ実施に至っておりません。ご不便をおかけしております。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100%				・日頃より気軽にご相談させて頂いている。 ・毎回その日の様子を連絡帳で書いてくださっているが、それと別に帰り際に直接先生からコメントを頂けるときはうれしい。	その分、ご家庭の対応方法など、保護者様がお気軽に相談しやすいよう、職員がご送迎時に積極的にお声がけさせて頂いておりますので、ご活用いただければ幸いです。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	92%	8%			・日頃より気軽にご相談させて頂いている。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%				・日頃より気軽にご相談させて頂いている。	・施設長が心理士ということもあり、日々の育児にあたられている保護者様が安心して頂けるような雰囲気作りにも力を入れております。 ・イベント等は残念ながら実施できておりませんが、職員一同、自然とご兄弟のお名前や年齢を覚え、在籍のお子様と同様に成長を見守らせて頂く雰囲気ができております。また、生活リズム等日常生活のご相談にのるときも、ごきょうだいありきの視点でお話するよう心がけております。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13%	17%	41%	29%	・なくても良いと思っている。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%				・日頃より気軽にご相談させて頂いている。 ・定期的な面談とは別の機会まで作って下さり、助かっている。	・引き続き、周知を徹底してまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%				・日頃より気軽にご相談させて頂いている。 ・毎日の様子をご連絡頂けている。	・連絡帳のほか、LINEをご登録いただくなど、密に意思疎通ができるよう努めております。

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	75%	8%		17%	・ホームページを拝見したが、自己評価結果を見つけることができなかった。SNSまでは確認していないので「わからない」と回答した。 ・プログラム中の写真が見たい。 ・ホームページの先生の紹介が更新されていないので、更新して頂き先生の専門を知りたい。	・ホームページの整備が間に合っており、大変ご不便をおかけしております。補完のため、インスタグラムも開始しました。来年度開始にあたり、SNSでお顔を伏せつつお子様のお写真を公開して良いかどうかのアンケートを実施する予定です。ご協力頂けましたら幸いです。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	96%	4%			・適切に対応して頂いている。	・引き続き、職員の個人情報保護に対する意識付けを徹底して参ります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	87%	4%		9%	・避難計画書を拝見したが、実際に行われているのかは不明だった。 ・保護者に特別な説明はないが、訓練を定期的に行っているのがわかる。	・玄関スペースに各マニュアルを置き、いつでもご覧いただけるようにしておりますが、今後周知を徹底して参ります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	93%			7%	・避難計画書を拝見したが、実際に行われているのかは不明だった。	・連絡帳やご送迎時の報告で、お子様の様子に加えて避難訓練の流れもわかりやすくお伝えできるよう努めてまいります。 - また、週1回ご利用のお子様はどうしても訓練の機会が少なくなりますので、月替わりでまんべんなく訓練の曜日を設定しております。 ・訓練の機会が少ないお子様もスムーズに誘導できるよう、職員側の訓練としても日々試行錯誤を重ねています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	92%	4%		4%	・具体的にはわかりかねるが、子どもたちへは十分に目が行き届いており、安全面は適切であると感じている。	・安全計画は策定しておりますが、普段バインダーに入って玄関スペースに置く形になっており、保護者様が見にくい形かと思います。今後、置き方など検討して参ります。

	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	96%			4%	・避難計画書を拝見した。 ・連絡先を共有し、体制づくりがしっかりされていると思う。	・今後も、もしもの時でも安心と思って頂けるよう、説明や体制づくりに努めてまいります。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	96%			4%	・行くときに楽しそうにしている。	・大変うれしいお言葉をいただき、ありがたい気持ちでいっぱいです。安心安全な場所で、「楽しい」と思う気持ちが土台にして、お子様は成長すると思っております。これからもそのような施設づくりに尽力して参ります。お気づきのことがあれば、気兼ねなくスタッフにお声がけください。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	96%			4%	・「〇〇したの？」の問いに明るく「しゅんしゅー！（先生）」と答えてくれる。 ・行くときに楽しそうにしている ・楽しんで通えていると思う。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%				・非常に満足している。 ・送迎制度があると休まず通わせられるので、希望している。 ・職員が増えたら、個別指導を週2回に増やしてほしい。	・貴重なご意見ありがとうございます。送迎の実施に至れずご不便をおかけしております。職員が安全に施設のお子様をお預かりできる人員を確保するため、ご理解頂けましたら幸いです。 ・言語聴覚士は常勤で在籍しており、大集団活動や自由遊びの時に、必要なお子様に個別につきながら言語的な関わりを促したりお子様の発音の観察をしながら関わっておりますので、関わり方などご質問がございましたら、いつでもお声がけください。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援つぼみ					公表日	令和 7年 2月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	60%	40%	・狭いと感じるときはあるが、パーティションを用いて活動別に区切ったり、運動を行う際は衝突が起こらないよう少人数に分けるなどしている。	・柵や机、パーティションが多いため、これらが倒れないためのより強固な工夫を検討している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	・職員1名に対し児童1～2名の割合で配置でき、個別支援が可能となっている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80%	20%	・入口階段には、児童の高さに合わせた手すりを設置し、「おててをぎゅっとするよ」「手すりをしっかり持ちます」など、どの年齢の児童にも頻回に声掛けをしている。 ・職員会議にて、掲示物が多く児童の注意がそれやすいという意見があったので、壁の掲示物の量を見直した。 ・階段が危険なので、降園時はスタッフが玄関ドアの外で保護者様に児童の様子を伝え、終わってから児童を外に出すなど、誘導のタイミングを工夫している。	・1日のスケジュールなど、視覚支援となる掲示物について、現在内容を検討している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	80%	20%	・定期的に空調や空気清浄機のフィルター清掃や、カーペットのスチーム洗浄を行い、環境を整えている。 ・おもちゃはクラスが終了するごとに（1日2回）次亜塩素水で消毒を行っている。	・定期清掃の前に換気扇フィルターにほこりが目立つときもあり、清掃ペースの見直しが必要である。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	40%	60%	・個室が一部屋しかないので、保護者面談と個別療育のスケジュールをやりくりしたり、パーティションを活用して個別のスペースを作るよう工夫している。	・個室の中に児童の興味を引くものが多く、個別療育での影響が懸念されるため、消火器など安全のために必要最低限の物を除いては、配置を見直す必要がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		・毎日の活動についての目標設定や1日の振り返り、児童について気になることの共有は、常勤職員がスタッフのほとんどを占めているため、かなり密にできている。	・令和6年7月からの新規スタッフで構成されているため、今後さらに向上が期待できる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	80%	無回答 20%	・毎年1回、保護者アンケートを実施し、内容をスタッフと共有し、改善につなげている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	80%	20%	・毎日のミーティング以外にも、些細なことを相談したり話し合いができる雰囲気づくりに皆が努め、支援に関する共通認識が持ちやすくなっている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%	・第三者による外部評価は、令和元年の開所時から現在まで実施されていない。	・今後外部評価を導入するか否か、またその方法については、系列店舗とも話し合い、検討を進める。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	60%	40%		・虐待防止に関する研修など、法令で定められた研修は実施しているが、療育における新しい理論や発達検査についての知識、職員のメンタルセルフケアなど、スタッフが仕事にやりがいや手ごたえをしっかりと感じられるように、より内容をブラッシュアップしたり、外部研修へ参加しやすいシステムづくりを検討したりしてきた。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	60%	40%		・現在ホームページの情報更新が追いつかず、使用ソフトの見直しも視野に入れて整備を急いでいる。今後はInstagramで日々の活動プログラムおよび支援プログラムも周知していく。		

12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		・ 児発官がモニタリングで視聴した内容に基づき、アセスメントシートを用いて5領域についての分析を行っている。 ・ 毎利用日ごとに保護者様に児童の様子を伝え、家庭での様子をこまめに伺い、日ごろから保護者様のニーズや課題把握ができるよう努めている。	・ 有効なアセスメントツールの情報を集めたり、モニタリング報告書の書式を見直したり、よりスムーズな支援計画作成のための仕組みづくりを進めている。
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		・ 常勤職員が全員集まれる時間に会議が実施されており、それぞれの考えや意見を出し合っているため、常に最善を考慮した検討が行えている。	・ 日々の振り返りや支援の準備、室内の清掃消毒など、職員の業務が膨大な中で、より効率がよく、かつ職員間の意見を把握しあえる支援会議の進め方を模索している。
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		・ 支援会議もミーティングも、原則としてスタッフ全員が参加しているため、各児童の支援目標は職員間で共有がなされており、できあがった計画書も、いつでも確認できるように取りやすいところに保管している。	・ 毎利用日ごとに職員が記入し保護者に渡す連絡帳にも支援目標を貼付するなど、今後さらに支援計画を意識しやすい仕組みづくりを検討したい。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		・ 日々の行動観察の結果について、毎日のミーティングで職員間で共有するとともに、子どもの発達の目安を示した表を用いて各児童の発達段階の把握を心がけている。	・ フォーマルなアセスメントについては、市の研修で紹介されたSDQ尺度の導入を新たに検討し、より精密で標準化された項目での把握を目指している。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		・ 本人支援だけでなく、家族支援、地域支援・連携の目標と支援方法も作成している。	・ 市の研修で、移動支援についての支援内容を周知して頂いたので、バリエーション豊かに取り入れていきたい。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		・ 毎日のプログラムを計画する際は、常勤職員全員が集まれる時間に会議を開き、全員がアイデアを出し合っている。	・ プログラムの立案そのものはチーム全体で行えているが、日案はリーダーに作業が偏りやすいので、日案会議の時間を拡大するなどしてその日の作業や懸案事項をリーダーが分担・相談しやすい形を検討する。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		・ プログラム立案会議では、曜日別で利用者の一覧を見てそれぞれの児童の現状や課題を話し合い、その時々児童に寄り添った支援ができるよう、季節の活動・粗大運動・微細運動・他者とのやりとりが発生する活動などをバランスよく考案し作成している。 ・ 週の利用日が多い児童でプログラムが重複する場合は、別プログラムを設定するなど工夫している。 ・ 毎月新しい活動を導入する一方、必ず実施するプログラムも取り入れ、定期的に観察することで児童の成長の度合いを測ることも行っている。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		・ 当施設では言語聴覚士による個別療育を実施しているが、そのほかのスタッフも、児童1～2名につき1名が配置できているので、集団活動中でも必要に応じ個別に対応することが可能になっている。	・ 言語療育は希望児童全てに実施できていないが、人員やスペースの問題だけでなく、児童の年齢や発達課題によっては小集団療育の方が効果的である場合も多く、希望に叶えない場合はより一層の懇切丁寧な説明を実施したり、代替の支援方法を提示したりして、保護者様への理解と納得を頂けるよう尽力したい。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		・ 毎日その日のリーダーが日案を所定用紙に記入して掲示し、それを見ながら支援開始時間前にパートタイムも含めた職員全員でミーティングを行っている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		・ 支援終了後のミーティング時にスタッフ全員の児童の観察結果をリーダーが聞き取り、日案に記入する形を取っている。 ・ 児童の様子だけでなく、保護者様の話も共有している。 ・ 終了後だけでなく、支援中であってもその場で気が付いたことや進め方を話し合い、より良い支援につなげている。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		・ミーティングの時間に日案に支援の検証や改善点、児童の変化を必ず記録することで、次回以降の日案の目標設定や支援方法が決めやすくなっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		・児童によって支援期間（3～6か月）を設定し、適切なタイミングで支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		・会議への参画は原則 児発管であるが、参加の前に必ず職員に子どもの状況を聞き取り、情報に漏れないようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	80%	20%	・保護者様に保育園や幼稚園と連携できる旨を折に触れてアナウンスし、園に出向いたり、逆に見学を迎え入れたり、直接のやりとりが時間的に難しい場合はお電話や療育報告書など、柔軟に形式を変えて連携を取りやすくしている。 ・子ども部会には基本的に毎月参加しており、市や他事業所等、他機関とのつながりを密にできるよう努めている。 ・令和6年度中、児発管や言語聴覚士が、ゆりかご園様やおそろ園様に申し入れて療育の様子を見学させていただいた。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	80%	20%	・就園や他事業所利用を控えている保護者には、連携できる旨を必ずお伝えし、希望者には就園先や他事業所に療育報告書を無料で発行してスムーズな移行ができるよう努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	60%	40%	・令和6年度中は学校に向けての報告書の発行や直接の連携に至るケースはないが、就園時と同様、連携できる旨を保護者様に周知している。 ・年長児のモニタリングの時期を就学前相談の前に設定し、必要に応じて保護者様に助言を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	20%	80%	・発達検査の結果を共有して頂くなど書面でのやり取りはあるが、スーパーバイズなどは受ける機会は設けていない。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	20%	80%	・現在、地域の園との交流の機会は設けていない。	・児童がイレギュラーな場所や人に対応できるか、個人情報を守られるか、保護者様の要望に的かどうかなど、慎重な検討が必要だと考えている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		・連絡帳を毎利用ごとに記入しているほか、送迎時には施設での様子をお伝えし、保護者様に安心して頂けるよう、また、園や家庭での困りごとも含わせて伺い、園・家庭・施設での共通理解となるよう努めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	20%	80%	・外部機関で家族向けの研修会が行われる情報を得たときは、玄関スペースに掲示するなどして周知している。	・当所が開催するにあたっては、日程の調整と人員の確保が難しい状態である（保護者の参加が見込まれる時間帯が施設休所日にあたり、職員の日程を合わせる事が難しい）が、保護者様の個別相談には密に応じられるよう、LINE登録や毎回の声かけに努めている。

保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		・契約時に児発管がお伝えしている。利用者負担についてはご理解されにくい内容であるため、特に丁寧に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		・支援計画作成の前に必ず面談を実施するほか、質問紙をお渡しし、所定の質問以外にも自由記述欄に気になることを記入して頂いている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		・計画作成前の面談のほか、後日計画をお渡しする際も保護者様と読み合わせ、説明を行って同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		・半年に一度のモニタリング面談のほか、日々の送迎時のお声がけやLINEでもご相談に応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		100%	・父母の会や保護者会は現在設けていない。	・今後要望があれば検討したい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		・日々の送迎時のお声がけのほか、施設の携帯電話のLINE登録をお勧めし、対面でも文章でもご相談しやすい体制を整えている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	80%	20%	・月のプログラム内容を毎月掲示するほか、日々の活動の様子をInstagramで発信している。	・令和7年度より、SNSに関する同意書を作成・保護者様にお子様の掲載可能な範囲をご記入いただいたうえで、よりわかりやすい写真や動画の発信につなげる予定である。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		・施設の特性上、個人情報は特に大切なものと意識しており、個人情報は鍵付きのロッカーに保管し、廃棄する書類は必ずシュレッダーにかけている。 ・保護者様や外部の方が面談等で入室される際は個人名が書かれたホワイトボードを裏返す、施設外で利用者様について話をせず、やむを得ない場合のみミニチャルを用いて共有するなど、細心の注意を払っている。	・製作については、送迎時にお子様の作品が保護者に見て頂きやすいよう、下の名前を書いて掲示していたが、今後保護者の意見を伺うことを検討したい。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		・児童の障害や特性を知り、寄り添った支援の実施、また視覚支援やコミュニケーションツールを用いて意志の疎通を図っている。 ・保護者様からの相談や悩み事に寄り添えるよう、職員が自発的に書籍等で学んだり、職員間で情報交換をしたりしている。	
非 常 時	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%	・事業所内の行事はあるが、地域住民の招待や広報活動については、個人情報保護の観点から、実施には至っていない。	・保護者様からのご要望があれば、検討する。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		・月に2度（午前1回、午後1回）の避難訓練を実施し、地震・火災・風水害・不審者等、様々な想定で行っている。また、毎月実施する曜日を变えることで児童がまんべんなく訓練を経験できるように工夫している。	・不審者対策は、あらゆるパターンが想定されるため、今後より多く訓練の情報を集めたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		・訓練時には、職員の動きの訓練も兼ねて迅速に動き、併せて課題の抽出にも努めている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	80%	20%	・入所時に提出する個人カードに服薬や持病の有無を記入いただき、口頭でも確認している。	・予防接種については特に伺っていない。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	60%	40%	・医師の指示書の提出は保護者様の任意だが、入所時の個人カードに食物アレルギーについて記入頂き、アレルギーの有無と対応方法を伺っている。変更があった際は口頭で伺い、その都度カードに職員が書き加えている。	・今後も、変更があった際は職員にお知らせ頂くよう周知したり、個人カードでの調査を入所時だけでなく年に一回のペースに増やしたりして、アレルギーの把握ができる仕組みを整える。
非 常 時	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	60%	40%	・年度初めに作成した安全計画をもとに訓練が実施されている。	・前述のとおり、不審者対策についてはより綿密な実施方法を考える必要がある。

等 の 対 応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	40%	60%	・保護者様の手に取りやすいよう、玄関スペースに各マニュアルを設置しているが、今後も周知を徹底したい。	・安全点検などは、清掃中に実施しているが、リスト化できていないため、今後作成し、合わせて保護者様への周知をしていく。 ・プログラム予定表や連絡帳での報告だけでなく、口頭でも訓練を実施したことをその都度お伝えし、より保護者様の安心感につなげたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		・小さなことでも気が付いたことがあればヒヤリハット報告書に記入している。	・職員の仕事は多岐にわたるが、ヒヤリハット発生時の対策は業務の最優先におく意識を今後も徹底したい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		・些細なことでも支援の悩みを気軽に相談できるような風通しの良い雰囲気づくりに、児発管だけでなく各職員が努めている。	・法令に基づいて年に一回の社内研修を継続するとともに、今後も職員の悩みを取りこぼさないよう細心の注意を払う。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	40%	60%	・身体拘束マニュアルを策定し、施設に対する同意書は全ての保護者様から得ている。それ以上の身体拘束を必要とする児童は現在在籍していない。	・今後行動の自由を制限する可能性がある児童については、支援計画に記載し、保護者様に安心していただけるよう、説明を徹底する必要がある。